

市立博物館第31回企画展

古代の筑波山信仰

—内海をめぐる祭祀の源流



女体山出土の鏡
(奈良時代、筑波山神社保管)

空からみた筑波山(県立歴史館提供)

名峰筑波山に対する信仰は、どこまでさかのぼるのでしょうか。奈良時代の「常陸国風土記」や「万葉集」で、筑波山は「雄の神」、「女の神」と呼ばれていて、神の宿る山(神体山)として信仰されていたことがわかります。男性山と女性山の山頂周辺では、祭りに用いられた奈良・平安時代の鏡や土器などが発見されています。筑波山の山中から山麓にかけては磐座と呼ばれる巨岩・奇石が点在していますが、その周辺からも祭りの土器が見つかっていて、磐座は神の依代(降臨する場所)として祭られたと推測されます。

本企画展は、筑波山信仰と祭祀の源流を考えるものです。あわせて霞ヶ浦沿岸の古代祭祀や交通にも目を向け、ランドマークとしての筑波山と内海を舞台とした地域交流についてご紹介します。

◆記念事業

①記念講演会「古代日本における山と信仰」

とき／11月7日(土) 午前10時30分～正午

講師／茂木雅博さん(市立博物館館長)

定員／70人(先着順。入館料が別途かかります)

②企画展講座「筑波山信仰の源流をさぐる」

とき／11月22日(日) 午前10時30分～正午

講師／市立博物館学芸員

定員／70人(先着順。入館料が別途かかります)

③現地見学会

～筑波山神社と周辺の遺跡をめぐる～

とき／11月29日(日) 午前9時30分～午後4時

ところ／六所神社跡、筑波山神社、女体山山頂

八幡塚古墳(つくば市)ほか

定員／40人(先着順。11月4日(火)から電話で)

参加料／1100円(ケーブルカー代ほか)

④展示案内会(入館料が別途かかります)

とき／11月8日(日)、22日(日) 午後2時から

◆共催展示「土浦から筑波山へ」

大正・昭和の筑波山登山と筑波鉄道

とき／11月2日(月)～15日(日)

午前10時～午後9時

ところ／イトーヨーカ堂土浦店1階特設会場

(大和町8-12)

※アンティーク絵葉書、古写真、案内パンフレットなどをパネル展示

◆期間

10月31日(土)～12月13日(日)(月曜日と11月24日(火)は休館)

開館時間／午前9時～午後4時30分(見学は午後5時まで)

◆入館料：一般105円、小・中・高生50円

※11月3日(火)(文化の日)、8日(日)(關流砲術公開演武)、

13日(金)(県民の日)は無料開館

〒302-8244・2928

〒302-8244・2928

◆特別展覧

●吉野大峯山頂遺跡出土品(国指定重要文化財)

奈良県吉野郡、平安時代)

●大和三輪山・山ノ神遺跡出土品(奈良県桜井市、古墳時代)

◆展示構成と展示品

I 山の信仰とその起こり

— 大峯山頂、三輪山出土資料

II 古代の筑波山信仰と磐座

— 磐座の遺物と山麓の里宮関係の資料

III 古代の神まつりと筑波山の位置

— 鹿島、香取、浮島の祭祀遺物ほか

IV 信仰の起源と内海の世界

— つくば市八幡塚古墳出土埴輪ほか



山麓の「飯名の社」伝承地と本殿裏巨岩